

令和6年度
第36回 武蔵野市地域公共交通活性化協議会

I 開催概要

日時：令和6年11月18日(月)午後3時から午後5時まで

会場：市役所8階811会議室

出席者：武蔵野市地域公共交通活性化協議会委員 15名

〔事務局〕 武蔵野市交通企画課

〔事務局〕 株式会社ケー・シー・エス

配布資料：第36回武蔵野市地域公共交通活性化協議会 次第

【資料1】武蔵野市地域公共交通活性化協議会構成員名簿

【資料2】武蔵野市地域公共交通計画 策定スケジュール（令和6年11月時点）

【資料3】武蔵野市地域公共交通の現状（現況データ整理・分析）

【資料4】住民グループインタビュー結果（概要）

【資料5】交通事業者ヒアリング結果（概要）

【資料6】ムーバスのコンセプト等の検証

【資料7-1】ムーバスの利用状況等に関するアンケート調査（案）

【資料7-2】路線バスの利用状況等に関するアンケート調査（案）

【資料7-3】タクシーの利用状況等に関するアンケート調査（案）

【資料8】現計画の事業評価・検証一覧（令和6年11月時点）

【資料9】地域公共交通に関する市民アンケート調査（案）

【資料10】ムーバスお盆ダイヤの実施結果について（報告）

【資料11】ムーバス7号路線バス停⑥「地区公会堂」の移動について

II 会議の概要

1. 開会(事務局)

- (1) 会長挨拶
- (2) 委員紹介
- (3) 配布資料確認

2. 議事

- (1) 協議事項

①これまでの振り返り 策定スケジュールの確認【資料2】

②現況データ整理・分析について【資料3】

座長：資料について質問等はあるか。

＜質疑なし＞

③交通事業者ヒアリング結果について【資料5】

④住民グループインタビュー結果について【資料4】

座長：市民交通計画の策定から30年、ムーバス運行開始から来年で30周年を迎える中で、運行する供給側や担い手の実態・課題と、利用者となる市民の意見を折り合わせながら、ムーバスの役割を再確認し、再定義していきましょうということが前回までに確認された到達点である。それを受けて、今回は事業者ヒアリングと

住民グループインタビューを実施したというものになる。この後の議題でもある利用者アンケート調査も折り込みながら、最終的にムーバスを計画の中でどのように位置づけ、今までどおり続ける部分、新たに見直していく部分といった視点を整理していくことになる。

委員 : ネガティブな内容になるが、乗務員不足が深刻化している。離職者も増えており、今後人員の増加が見込めない。ムーバスについては可能な限り続けたい意向はある。しかし、他の自治体ではコミュニティバスの運行をお断りする例も増えている。そのような状況であることはご理解いただきたい。

委員 : 人員不足に加えて、お伝えしたい。ムーバスは、路線バスドライバーが助っ人に入りながら、対応している。さらに病欠が生じると、ドライバーに負担がかかってしまい、運営上の持続可能性が高くない状況である。道路は混雑しやすく、遅延が生じてしまう。そのような中で運行しているとドライバーの心理的な負担になってしまい、労働環境としてはマイナスになっている。現在のパターンダイヤは利用者にはとてもよいのだが、道路が混雑する時間帯にはパターンを変えてゆとりのあるダイヤにするというやり方もあり得るのではないか。

委員 : 乗務員不足は深刻化している。若い乗務員が免許を取得しない状況があり、平均年齢は高くなっている。定年退職があり、人が減る中でどのように路線を維持するかが課題になっている。

委員 : 2024年問題と大型二種免許数の減少がある。大泉学園の方では利用者はいるが、減便・廃止をしている例がある。人手確保に向けて、賃金アップなどを行っている。そのような状況もあるので、100円運賃については継続的に検討をお願いしたい。

座長 : 100円運賃で運行できている背景も含めて、どのようにムーバスが支えられているのかを市民の皆さんにお伝えしていく必要がある、という意見が分科会でもあげられた。当初はアンケート調査にムーバスの現状を掲載する話もあった。

委員 : コロナの影響もあり、タクシーの供給は足りていないこともある。タクシーがつかまらないという話もあるが、需給バランスであり雨・雪の日などにはタクシーが足りないことはあるが、本協議会で大きな論点にはならないと認識している。市内のタクシー乗り場を増やすことは引き続き検討をお願いしたい。近年ではあまりそのように感じないが、武蔵野市は民度が高く、自治精神がある地域であった。ムーバスについては、良い面ばかりが取り上げられているが、抱えている実情があるため、そのような内容を市民に伝える必要があるのではないか。ムーバスそのものについても見直しの議論をしていく必要もあると思っている。

座長 : 分科会では、現計画ではタクシーの相乗りなどの施策があるが、当時はタクシー配車アプリの利用割合がまだ少なかったという背景があった。それが現在ではアプリの利用割合が高まっており、様々なことができるようになったため、そこをベースにした方法があり得るという提案もいただいていた。

委員 : 全国移動サービスネットワークが発行している情報誌でレモンキャブが紹介されており、こちらをご覧くださいとよく分かっていただけたと思う。家族でやっていたり、地域の方たちが運行している福祉の車で、事業者の運転している緑ナンバーと同じ枠組みで議論できるものではないと考えている。

- 座長 : レモンキャブについては、公共交通の利用が困難な方のための福祉有償運送であるため、交通事業としての緑ナンバーと同じ枠組みで議論すべきかどうかはあるが、地域の交通手段の一つという意味では一緒であり、同じ会議の場で議論をしていくべきである。ただやはり性質は異なるものである。
- 委員 : グループインタビューの中で、ムーバスの料金体系について、利用者だけの負担ではないという考え方が基本になるという意見が出ていた。利用者一人当たりの市負担額が 50 円だとすると、100 円が利用者負担で、50 円は市民みんなが等しく負担するという形となる。
ムーバス 30 周年なので、「季刊むさしの」にムーバス特集を載せて広くムーバスのあり方を知ってもらえると良い。
- 座長 : 市民みんなで支えていることをどのように知ってもらうかが重要である。単にバス会社の赤字を市が補てんしていると立てつけではなく、乗っている人もそうでない人も等しく支えるというのがムーバスの原点であり、その点は気を付けつつ伝えていくようにしてほしい。
- 委員 : ムーバスの考え方、コンセプトは素晴らしいと思う。一方で、運行していない不便なエリアもある。
- 座長 : 武蔵境エリアのグループインタビューに参加させていただいたが、公共交通を利用しにくいエリアがあるということは指摘されていた。
そもそも 30 年前にムーバスがどのようなコンセプトで設計されたのかは整理する必要があると感じた。

⑤現計画の評価・検証について【資料 8】

- 座長 : 分科会でムーバス運転士確保に向けたアイデアが挙げられたが、それを受けて反映した箇所はないということでよいか。
- 事務局 : 分科会から本日の協議会まで日が浅かったため、分科会でいただいた様々のご意見の資料への反映はまだできていない。
- 座長 : 承知した。引き続き反映をお願いしたい。
こちらの内容についてはアンケート調査結果等を見つつ、ブラッシュアップするので引き続き検討をお願いしたい。
- 委員 : 第 6 期長期計画・第 2 次調整計画のまちづくりの議論との連動はどのように考えているのか。
- 事務局 : 第 6 期長期計画・第 2 次調整計画は、これからパブリックコメントを実施する予定である。11 月 23 日には意見交換会があり、12 月頃にはその内容がとりまとまる予定なので、次回協議会または次年度 1 回目の協議会で情報提供をしていきたい。
いずれにしても、地域公共交通計画と連携を図っていきたい。
- 委員 : レモンキャブを子育て世代が使えるようにする、という話があったと思うがそのあたりは、どうか。

事務局 : 市長の公約の中で、「子育て世代に向けたレモンキャブ活用」があった。法令上の問題があり、そのような動きはなくなったが、子育て世代への移動支援はポイントであるため、引き続き検討していく。

⑥利用者アンケート（案）について

ムーバス利用者アンケート（案）【資料7-1】

路線バス利用者アンケート（案）【資料7-2】

タクシー利用者アンケート（案）【資料7-3】

⑦市民アンケート（案）について【資料9】

委員 : 利用者アンケート調査について、わかりやすい内容である。個人的に重要と感じているのは、市民アンケートで空白地域・不便地域の人たちの移動実態を把握することだと思う。これは、町名だけで把握できるだろうか。
また、バス専用レーンに関する設問は、削除しているが、引き続き議論が必要ではないか。バス専用レーンのタクシー通行可についても検討する必要があるのではないか。

委員 : バス専用レーンのタクシー通行可に関しては、タクシー事業者からも要望しているが、道路幅員や信号待機場所スペースの問題があり、物理的に実現できないということであった。

事務局 : 市としても、解消に向けて警視庁との協議や各種調査を行った上で、現時点、現況では、解消が難しいことが分かったところである。

座長 : それらの検討については、分科会でも引き続き検討が必要である。
空白地域・不便地域の判定はどのようにするか。住所だけでなく、バス停までの時間・距離も聞いているので、それらを組み合わせて把握してはどうか。距離も直線距離をご回答いただくわけではないので、バス停までの徒歩時間で判定する方が良いかもしれない。

座長 : その他に意見等がなければ、利用者アンケート調査については、事務局と私で最終確認の上、実施するというところでよいか。

<異議なし>

(2) 報告事項

①ムーバスお盆ダイヤの実施結果について【資料10】

②ムーバス7号路線バス停⑥「地区公会堂」の移動について【資料11】

座長 : 今年度のお盆時期と前年度のお盆期間がずれているため、乗客数の前年度比較時は留意が必要である。

事務局 : 数値を確認・修正して、委員の皆さんにメール等でお送りする。

以上